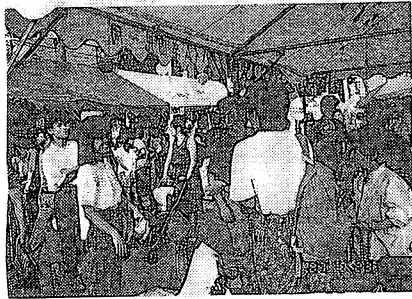
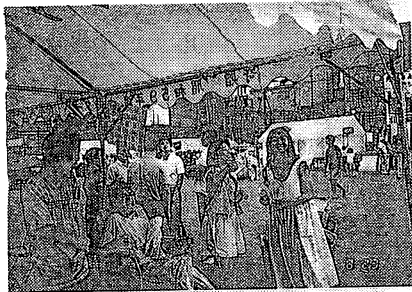


# サロン・あべの

<サロン・あべの> NO. 15 昭和62年9月19日(土)発行

あべのカーニバル 8月23日(日)午後3時~9時  
区役所周辺と工業高校グラウンド



第14回あべのカーニバル

## 八月の出山云い

昭和六十二年八月二十三日(日)、区役所・工業高校グラウンド・その周辺路上で開かれた第十四回あべのカーニバルにハサロン・あべのVは昨年同様、バザーで出店。地域の人たちとの出会い、ふれあいの場をもった。

「朝雨に驚くな」という諺があるが、あべのカーニバル当日の八月二十三日早朝の雨、一瞬あわてさせられたが、その後の天気は予報どおり晴。なにはともあれ、無事開店のはこび……

準備途中の一時すぎ、一人のナイスミディーが、いきせききって走り寄って来て

「去年、こゝでこれ、もろてん。今年もなんか……」

『ありがとうございます。用意の最中ですがみて下さい。』

横から、マッ黒に日焼けしたボク。プラスチックの水筒を持ちあげて

「おっちゃん。これなんぼ」

『二十えんや。ストローついてるさかい飲みよいで』

「ヤッター！」

クシヤクシヤに握りしめた札を延ばしながら、

「買う」

カンカン照りの中、準備を続ける。

しゃがんだそのうしろから、

「これエ、千五百にならんかいな」

『そんな まだ開店もしてへんににキツイこと……』

笑いながら立ち去った。

開店前の繁忙、開店直後からの混雑が一段落した四時ごろ

「次の例会は九月十九日やった?  
行きます。がんばってね」  
と顔見知りの人が通り過ぎる。  
—— 一時にわか雨——という気象  
庁の子報がキッチリの中。もうちょ  
っとのところで水をさぐれ、コール  
ドゲーム。

とはいうもののハサロン・あべのV  
のあべのカーニバル参加は地域の人  
々と出会え、ふれあう場をもて、今  
年も大成功。  
なお、今年には、出会い ふれあい  
助けあいのハサロン・あべのVをよ  
り多くの人に、より深く知ってもら

● ありがとうございます



○ 物品寄贈・値つけ・設営など準備と、搬  
出入・販売・カンパなどにご協力いただ  
いた方々の氏名(五十音順敬称略)

赤松憲二 旭純子 安達尚子 あべのた  
んぼぼ作業所(前田、松本) 網谷保子  
石田律・美彌子・元・惣 井上憲一 上平  
幸雄 浦野清美 大島功 岡賀寿子 小川  
ミヨ 金岡千恵子 金子花江 河合恵子  
北原喜久 小寺省吾 斉藤孝文 里山通子  
佐本日出子 沢田妙子 鹿野敬一 高尾澄  
男 竹下秀樹 田中旬子 田中マサエ 津  
村孝子 寺本喬 出口正敏 富田慶子・十  
一・実幸 辻本輝子 中西利香 平野祥子  
福西和男 水野千鶴 森下公子 倭満也子  
山梨徳治 山本敏子 山本ハツエ 万木恭  
子 吉田毅 匿名六名 他

おうと、説明およびその活動を写真  
で紹介したチラシと、本紙第十四号  
(六十二年八月二十三日発行)を物  
品お買上の方に手渡し、PRにつと  
めた。(3・4・5面にあべのカー  
ニバル参加の関連記事)

— 本紙に優良賞 —

— 府社協 広報紙コンクール —

大阪府社会福祉協議会の第15回福祉広報  
コンクールで、本紙(サロン・あべの)が優  
良賞に入選。大阪府社会福祉大会において、  
9月21日表彰をうけます。

## 第十四回 あべのカーニバルに参加

あべのカーニバル

サロン店に参加して

高尾 澄男

僕は今回、初めてサロンから阿倍野カーニバルに参加させてもらいました。

役員さんを始め皆さん方の前もった準備によって、当日はたくさんバザー商品が集り、皆さんがよく頑張ってくれたおかげで、僕が帰るまぎわには、ほとんど売れていたようです。これで少しでも多くの方々にサロンを知っていただく事が出来、又皆さんの協力によって安くて良い商品を買っていただく事が出来て本当によかったなと思えました。

僕自身も今回、ほんの少ししかお手伝い出来ませんでした。バザー販売のお手伝いが出来て、皆さんと共に良い経験をさせてもらって楽しかったです。

最後になって本当に残念な事に雨がふって、品物と共にびしょぬれになったそうで皆さん本当に大変であったと思います。風邪などひかれなかったでしょうか。来年は雨のふらない事を祈っています。

あべのカーニバルに参加して

齊藤 孝文

あべのカーニバルに初めて参加して、まず思ったことは、大きな夜の雰囲気は漂っていたこと。僕が行った時は、割と人通りが混んでいる、電動車イスでは通りにくかったこと。もう少しグルグルと見て廻りたかったけれど、すぐ旭さんが見つけてくれて「サロン・あべの」の所まで案内して下さったのと、六時頃には家に帰る約束だったので、充分観察出来ませんでした。

お店の感じとしては、チャンとテントも

張られ、皆で協力して一生懸命汗ダクで売っておられたのが、印象的でした。品物もよく売れているようで万々歳と思いました。

七時半頃からの大夕立で、お店の方は大丈夫だろうかと心配しておりました。

後で聞けば、テントを外した直後で皆さんズブ濡れになられたとか、予期せぬ出来事にどんなにか慌てられたことでしょう。

来年のことは、分りませんが、元気であれば、極力お手伝いさせていただきます。

—— サマーカーニバル

辻本輝子

あべのカーニバル参加も、皆様の温かい  
お心に支えられ二歳を迎え大盛況に終わ  
りました。これも御理解を持って沢山の御厚  
意の品物御提供下さった皆様方のおかげと  
感謝致します。ありがとうございました。

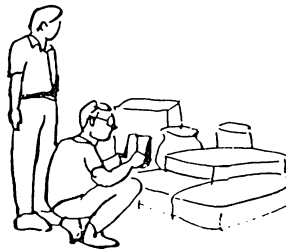
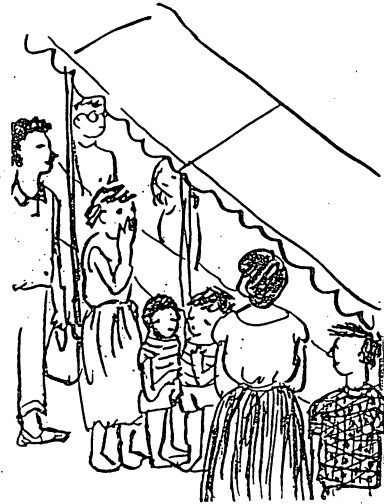
テントのおかげを頂いての店開き、お客  
様に商品を一望して頂こうと思えばなか  
か大変。気軽に手に取って買って下さるの  
はうれしい事です。皆様の目につくのは大  
半がタオル・・・

プレゼントを用意出来た事も幸いでした。  
「ありがとう」と可愛く弾んだ声を聞いた  
事で子供さんを通して良い出会いが実れば  
最高です。

売店には誠意あふれる活力を大いに発揮  
して頂け、額に汗して大活躍ありがたい事  
です。

サロンの活動行事も雨の散会となりまし  
たが、ベストに終わりました。来年の夏に向  
けリフレあいリの輪が大きく育ちますよう  
に、皆様の御協力を御願います。

賑わう“なんでも市”



カーニバル出店に参加して

福西 和男

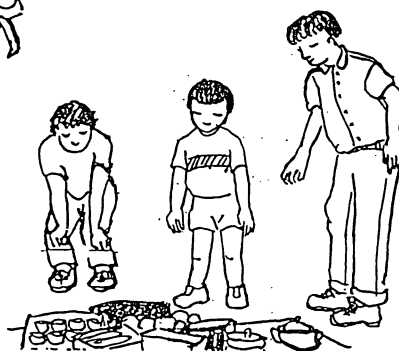
晴天に恵まれ、午後一時に会場に到着し、出店場所へ…。知っている人をめあてに場内を一周。約九ヵ月ぶりのサロンへの参加。「だれが来るのかな？」と少し緊張きみ。

やっと富田さんの姿が見えてホッと、しました。すぐに出店する品物が着き、その多さにはびっくり。あれだけ集めるには、だいぶ苦労したんじゃないかなと思います。

そして、全部売れるのか不安もあったけれど、三時すぎには、見る見るうちに売れていき不安もふっとびました。

また、売子になるのは少々はすかしかったけれど、すぐに慣れてしまった。と、いうよりも催しものに気をとられたり、買物に行ったり、そして、たんぼぼ作業所の仲間と一緒にいる機会が多く、ほとんど手伝っていないかも…

けれども、たんぼぼの指導員である先輩、初めて会う仲間、そしてサロンのみなさんに久しぶりに会えて、ふれあえて楽しい思い出になりました。



イラスト・石田美瀬子

## 夫婦を「見せる」ボランティア

今回、編集部よりいただきましたテーマは「結婚生活と地域」ということです。

ボランティア活動との関連でいえば、夫婦そろってボランティア活動ができれば理想ですね。たいていのボランティアは、実生活ではともかく、活動中は「独身」であることが多いようです。たとえ夫婦ともにボランティア活動をしていても、別々の場所で行っているようです。その方が夫婦円満なのかもしれません。また、夫から離れたいからボランティア活動を始めたという奥さんもいます。

それはそれとして、夫婦いっしょに同じボランティア活動ができれば、活動の幅がずっと広がるでしょう。

まず、ボランティア活動の「仲間」を、夫（妻）に遠慮なく自宅に呼ぶことができます。これはボランティア同士の人間関係にとつて大きなことでしょう。いつもいつも公共の建物の一室で集まっているだけでは、人間関係の深まりにも限度があります。自分の家と呼んだり、相手の家に行ったりしてこそ、ふだんの生活のなかの素顔を互いに知ることができるでしょう。

また、ボランティア活動でかかわる人たちを自宅に招待することができます。養護施設の子供たちや、ひとり暮らしのお年寄りなどに、家庭のあたたかさを思いだしてもらおう機会になります。ひとりのボランティアがいくら努力しても、家庭のあたたかさを演出することはできません。そこに「夫婦」がいなくてはダメなのです。

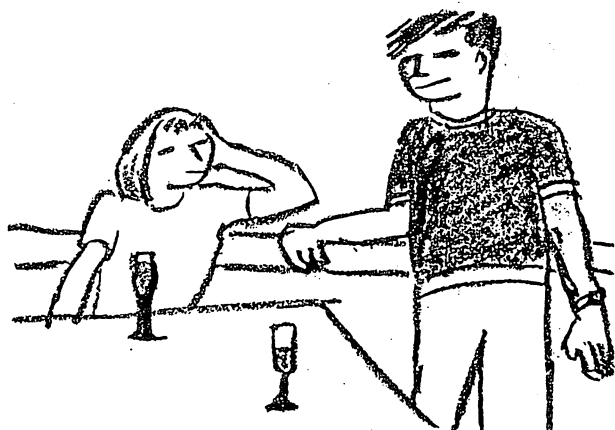
そして、これは最も見過ごされがちなことなのですが、みなさん方の「夫婦」を若い人たちに見せることができるということ

です。いまの若い人たちは、自分の両親以外には、実際の「夫婦」の姿を見たことがありません。そこに若い人たちの大きな不幸があるということをおぼえましょうか。昔は、たとえ父子家庭や母子家庭の子供であっても、隣近所や親戚の夫婦を見て育っていましたから、自分たちが結婚しても妙にとまどうことはなかったのです。しかし、いまの若い人はちがいます。自分たちの両親のあり方以外に「夫婦」のあり方を知らないという意味で、極めて貧しい「夫婦」のイメージしか持っていないのです。

ですから、両親が仲の悪い「夫婦」であつた子供は、仲の良い「夫婦」がふだんはどういう話をするものなのか全く知らないのです。小さいころ父親や母親をなくした子供にしても同じこと。たとえ仲の良い「夫婦」の子供でも、その子は両親という一組の「夫婦」しか知らないわけですから、自分の父親（母親）とは違うタイプの男性（女性）と結婚した場合、もうどうしてよいかわからなくなるのです。

ですから、どうか結婚されたら、自分たちの夫婦関係を若い人や現在うまくいっていない夫婦に見せてあげて下さい。それが幾万の言葉よりも、若い人たちには良いプレゼントになるでしょう。もし、彼等から相談を受けたら、それはみなさんの「夫婦」に魅せられた証拠にちがいないのです。

(知)



# THE DEAF MUTE 6

旭 純 子



医療機関を訪れるろうあ者にとって、コミュニケーション障害は精神的不安の大きな原因ともなる。

1 受付の問題 名前をよばれてもわからず、診察の順番を後回しにされて長時間待たされたり、受付の人の口元に注目していたり、自分より先の人たちの顔を覚えるなど、待っている間も気を遣わなければならない。緊張の連続でかえって症状が悪化したりする。

2 問診票の問題 ろうあ者の中には、問診票の内容がよく理解できなかったり、自分自身の症状について、的確に伝える文章力を持ち合わせていない者も多い。

3 診察の問題 医師や看護婦とのコミ

ュニケーションがスムーズに図れない。ろうあ者がひとりで行くと、通訳者が家族同伴で再来院するよう指示されて、診察を受けられなかったり、十分な説明もないまま薬だけ投与されたりすることもある。たとえ、筆談によって診察を受けることができて、医師の説明を理解できなかったり、自身の自覚症状を的確に伝えることが困難であることが多い。そのために医師が状態を十分に把握できなかったり、本人が病状を不理解のまま、治療だけが先行するという、危険な事態も起こり易い。

4 医療情報の欠如 ろうあ者の情報障害は、常識的な医学、予防知識の習得を阻害するため、来院が遅れて、早期発見の機会を逃してしまうことにもつながる。

5 救急時の処置 消防署や病院への通報が困難で、手遅れになったり、周囲の援助によって病院に運ばれても、通訳者が確保できなければ、生命にかかわることにもなる。

以上のようにろうあ者にとって、医療をめぐる問題点は、多岐にわたっており、健康、生命にかかわる問題でもあるだけに、「ろうあ者の医療保障」は十分になされなければならぬと思われる。

お知らせ

△サロン・あべのV十月の出会い

日時 昭和六二年十月十七日(土)

午後一時〜四時(集合一時)

場所 長居の大阪市立身体障害者スポーツセンター(集合→入口正面)

内容 ボウリング大会△サロン・あべのV秋のレクリエーション

(手足の不自由な人も出来るようになっていきます。手話通訳有り)

費用 なし

連絡先 電話06-6911-1028

富田 慶子

日々のよろこび添えて

△サロン・あべのVに贈るリ灯リ

八月のカンパ合計二〇〇〇円

ありがとうございました。

年内の行事予定



十二月十四日(土)あべのボランティア・ビューロー主催ボランティアアスクール交流会(ミニハイキング長居公園)にハサロン・あべのV参加  
十二月五日(土)午後一時よりハサロン・あべのVクリスマス集い。

育徳コミュニティセンター研修室。

その他 「第二回阿倍野区ボランティア交流会」参加(日程、場所等未定)

ありがとうございました

あべのカーニバルに参加したハサロン・あべのVにご協力、ご支援ありがとうございました。

おかげさまで五七二二五円の売上げがありました。ハサロン・あべのV会計

ボランティア・グループ代表者会議

九月二日(土)、あべのボランティア・ビューローで開かれた第二回目のボランティア代表者会に出席しました。

お詫びと訂正

本紙十四号に前回の会議録をそのまま記事に致しました。これは、決定事項ではありませんでした。お詫びと、ともに訂正させていただきます。

日程等、決定次第再度お知らせします。

編集後記



遠方から、あべのカーニバルへ来て下さったのに、サロン・あべのの店場所がわからず帰られた由。後日、お便りを頂いて知りました。まことに申し訳ありませんでした。この方のように、わからなかったと、いって下さればありがたいのですが、「ない」「見当らなかつた」ですまされる方がないとも限りません。多くの人に会え、ふれあえたことは事実だし、喜ばしいことです。だが一方で、こういったことがあったことは大いに反省しなければ……。

(石)